第３回　学校運営協議会　記録

令和２年２月５日
記録：石黒

１．学校長挨拶

２．委員紹介・出席者紹介・配布資料の確認

３．各学年および文章からの報告

（１）学校教育自己診断の分析、各学年から報告

３学年：生徒との人間関係を作ることを重視してきた。３４期と同等程度の自己診断の数値であった。学校が楽しい、教員への信頼に関する数値も例年より高かった。、総合学科で良かったと８６％の生徒が回答した。

２学年：１年から進路指導はしっかりやってきたため、進路関係の数値が高い。進路についての意識が高い学年である。一方で遅刻、欠席が多く数値が低くなっている。特徴として人間関係に悩みを抱えている生徒が多く、保健室に相談に行く生徒が多い。

１学年：先生が信頼できる、社会への扉、学校が楽しいという項目の数値が特に上昇していることが、学年の特徴である。HP の閲覧や校内の美化に関する意識が例年より低いので来年以降はその点を改善していきたい。

教職員：上昇項目が５８、下降項目が１９という結果であった。昨年より項目が上昇傾向であり、教職員の雰囲気は全体として好意的に感じているのではないかと感じている。教員が生徒に個々に対応しているという自負を感じる一方で、学校生活上の生徒のマナーの項目が低いと回答している。分掌、学年間の連携が取れていない、生徒指導方法が学年によって違いすぎるという意見も多くあったため次年度から何らかの取り組みをしたい。生徒会は行事で人を育てるということが実践できているという回答が多かった。教員の多忙さから意見交換できる環境を作る必要がある。

保護者：担任が相談しやすいなどの意見がある一方で、教員と生徒が適切な距離を取る必要があるという意見もあった。進路については満足している。部活の活気のなさが気になる、選択科目について保護者にも説明して欲しい。災害時の連絡や対応をもっとして欲しい。

（２）１２月現在の目標達成状況～各分掌から報告

学習指導部：安定した運営を目標にやってきた。１年生の第１回の科目選択の時期を６月から７月に変更し、進路についての授業を十分実施してから科目選択をする体制をガイダンス部と連携してつくることができた。来年度以降に１，２学年についているプロジェクターを３年生の HR 教室にも設置する予定である。授業見学では１０年目研修の教員と連携し例年より有意義に実施できた。

生活指導部：自立を目標にしてきた。遅刻の目標は昨年度の２０％減だが達成は厳しい状況である。２年生以降の遅刻が増加傾向にある。減らすために学年集会などで教員からしっかり思いを伝えることが重要である。SNS の取り扱いもしっかりやっていく。生徒指導体制を整える１つの方策として、昨年から生徒指導担当者会議を週１回実施し生活指導部内では一定の効果がある。しかし学校全体として生活指導の理解が十分でないので改善していきたい。

保健指導部：健康、安全意識の上昇を目標にしてきた。その方策として保健便りを年９回、防災意識を高めるために避難訓練、支援が必要な生徒のため、SSW、SC などを年１０回実施、教職員とも連携した。支援委員会を来年以降立ち上げたいと考えている。

自主活動：生徒会、委員会の活性を目標にしてきた。募金活動、古紙回収、クリーン作戦（今年度は５回実施）など様々な活動をしてきたが、特に体育祭、文化祭の行事後は大きく成長している生徒が多いので今後も行事で引っ張っていきたい。

ガイダンス部：社会への扉、課題研究の充実のため週１回担当者会議を実施している。２年生では地域探求プロジェクト、３年生の課題研究では論文型からポートフォリオ型に変更する予定である。学校見学会の満足度は高い。総合学科というところに興味を持って来る生徒が多い。進路状況は４年制大学は厳しい状況が続くが、就職は１次内定率８８％を達成した。

人権教育主担：プログラムの充実を目標に各学年の担当者と週１回情報交換をおこない、様々なプログラム、セクシャルマイノリティ、野宿生活者など講演会なども多く実施できた。小高連携、中高連携など地域連携にも力を入れることができた。

３学年：いじめがなく、１人１人の生徒と密に話し合うことを重視した。自立に向けて課題はあるが、子どもの声を聴こうとする体制はできた。手帳を採用したが、利用率は２４％程度であった。活用する生徒はよく使っていたので、良かったと考える。保護者とはよく話ができた。

２学年：語れる自分になろうを目標にやってきた。３年生になったときに自分がやったこと経験したことを話すことができる生徒にしたい。生徒の自主性を育てるために生徒主体で発案、運営の行事などもすることができた。しかし遅刻、欠席が多くその原因が人間関係にあることが多いことが課題である。

１学年：傾聴し、考動できる人であれを目標にその達成のため社会への扉の再編成に力を入れ、グループワーク、多様な価値観を認める活動を多く実施し、学年の土台作りとしては達成できたと考える。

オアシス：今年度は１年生に１４名の生徒が特別入試で入学してきた。１年が安心して生活できる体制を２，３年生を中心にしっかり作ってくれた。リサイクルセンターでの通訳ボランティア、地下鉄ボランティアなどにも参加し生徒にとって良い経験になった。文化祭、地域のお祭りなどでも取り組みを発表するなどできた。このような活動を通じて自分のルーツを意識させていきたい。

（委員の方からの質問事項および意見）

委員Ａ：３年生で手帳を採用したとのことだが、目に見えた効果はあったのか？

Ａ　学年主任が文化祭などで活用の優秀者の手帳を掲示をするなどして、他の生徒に知らせるなどをした。

委員Ｂ：手帳に興味がある。自己管理ができるとのことだが、２４％だけが使用、７６％が使用していないとはどういうことなのか？

Ａ　毎日手帳を活用する生徒が２５％、テスト前などだけたまに開く、開かな

いなどを含めて７５％ということである。一定の効果があった。

委員Ｃ：求められる価値観、人物像が目まぐるしく変わっている。その中で八尾北は１人１人の個性を大切にしているところが良いところである。生徒に愛情を持って個々に対応することが必要である。

４．協議

（１）令和元年度学校経営計画達成状況の評価
学校教育自己診断の分析および課題（校長より）

支援学校との交流機会を増やす
保護者の方への情報提供をしっかりおこなう
校内清掃が行き届いていない
教員の超過勤務時間の削減
授業方法を教員間で十分に検討できている
生徒の行事への意識が高い

（２）令和２年度学校経営計画策定に向けてのご意見

委員Ａ：教員の超過勤務を削減するためには会議の時間を削減するが必要がある。

委員Ｂ：基礎学力の充実を入れたのは良いことである。カリキュラムマネジメントは今後どのような形になっていくのか楽しみである。非認知機能（あいさつ、手帳など）を高める視点も欲しいところである。

（３）八尾北高校の防災教育について

３７期 SDW の防災ジャンルの取り組みについての発表

内容：SDW（ソーシャルデザインワーク）とは社会に目を向け、世の中で起きている問題について高校生ができることを考える活動であり本校の１学年で実施している１０月から２月までの取り組みである。こども、福祉医療、環境、防災ジャンルの４つから生徒が課題を設定し、高校生として何ができるかを考え発表をした。
この場ではオアシス生徒が所属しているグループの１つの課題である「外国の方に

避難所を案内するにはどうすれば良いか？」ということを中心に説明を実施した。外国の方が旅行に来た時に地震などが発生し、避難所に行かなければならないときに考えられる問題と自分たちの提案を発表した。
提案は電柱などに避難所へのルートを描いた地図と複数の言語での説明をつければ緊急時に外国の人が困らないのではないか？というものであった。ネパール国籍とベトナム国籍の生徒にも色々話を聞いて、協力して発表できた。

（委員の方からの意見）

委員Ａ：子どもが阪神淡路大震災時、自分が混乱している中、ガスを止めるなど適切な対応をし、学校で習ったとのことで防災教育の重要性を感じた。外国では地震を知らない人も多いと聞く。日本は災害が多いので、外国人向けのマニュアルなどは必須である。

委員Ｂ：良い取り組みと感じた。自身も阪神淡路大震災で被災した。当時垂水区に住んでいて、家の棚が倒れたり、ガラスが散乱するなどした。子どもも小さかったが記憶があり、防災意識が高い。被災時は周りが見えなくなるので、このような授業を日頃から続けていくことが大切である。

委員Ｃ：災害はいつ起こるかわからない。学校だけでなく、家や外出先で起こることも十分ありえる。日常生活を含めた防災意識が大切である。

委員Ｄ：八尾北高校の地域連携、人権教育などの取り組みが防災とつながっていくような気がする。秋田では中学生が災害にあったときに避難所を開設したりもする。そういう教育も今後必要になってくる。被災したときにどうするかも重要であるが、被災した人にどのように手を差し伸べるかが重要になってくる。

（協議終了）

６．次回以降の学校運営協議会について

今年度の学校運営協議会は終了

次回は６月に実施予定